

THE世界大学ランキング2019の指標【図表2】

※人数はFTE換算値。フルタイムの何人分に相当するかを示したもの
 ※本計算式は、プライスウォーターハウスクーパーズ(PwC)による第三者監査を受けている

分野	指標／指標中の割合	割合	対象年度	データ元	備考
教育	評判調査<教育>	15%	2017、2018年	エルゼビア社評判調査	・評判調査は、エルゼビア社のデータベースからランダムに抽出された研究者(地域や学問分野の偏りを調整)が優れている大学を最大15校回答。加えてその15校と重複のない大学を自国から6校回答。2017-18の集計。回答者数は2万人以上 ・大学の総収入は、各国の購買力平価で為替を調整している
	教員数*1：全学生数比率	4.5%	2015年	大学入力情報	
	博士課程学生数：学士課程学生数比率	2.25%	2015年	大学入力情報	
	博士号取得者数：教員数比率	6%	2015年	大学入力情報	
	大学総収入：教員数比率	2.25%	2015年	大学入力情報	
研究	評判調査<研究>	18%	2017、2018年	エルゼビア社評判調査	・教育分野の評判調査と同じ
	研究助成金および研究関連収入：教員数比率	6%	2015年	大学入力情報	・研究費は各国の購買力平価で為替調整 ・設置学部、学問分野に応じて標準化
	学術生産性 論文数：研究者数*2比率	6%	論文数は2013～2017年／研究者数は2015年	エルゼビア社Scopus／大学入力情報	・論文数はエルゼビア社のデータベースに登録されている学術誌に掲載された論文数 ・大学の規模、学問分野に応じて標準化
被引用論文	1論文あたりの被引用回数	30%	30%	対象論文は2013～2018年刊行物、引用回数は2013～2017年	エルゼビア社Scopus ・学問分野による引用数のばらつきを調整 ・国ごとの補正値を合成したスコア
産業界からの収入	産業界からの研究助成金および研究関連収入：教員数比率	2.5%	2.5%	2015年	大学入力情報 ・各国の購買力平価で為替を調整
国際性	外国人留学生数：自国籍学生数比率	2.5%	2015年	大学入力情報	・国際共著論文は、海外の共著者が最低一人はいる論文が対象 ・設置学部、学問分野に応じて標準化
	外国籍教員数：自国籍教員数比率	2.5%	2015年	大学入力情報	
	国際共著論文数：自学の論文数比率	2.5%	2013～2017年	エルゼビア社Scopus	

*1 教員数：授業を担当している教員のみ集計 *2 研究者数：授業を担当していない教員も含んだ教員数

「除外条件」
 ① 大学生(学部生)を教えていない大学
 ② 2013～2017年の研究論文の数が1000(年間)で最低150に満たない大学
 ③ 活動の80%以上が、THE側が定める8つの学問分野のうち1つだけに集中している大学
 (除外しないこともある)

103校がランクインし、イギリスを抜き世界第2位となった。
新星の登場によりスコア維持でも順位後退
 国／地域別のランクイン状況を整理したものがP.4の【図表3、4】だ。【図表3】を見ると、ランキング上位から中位には欧米諸国とオーストラリアの大学が多く、アジアの大学は一部が上位、多くは下位に分布していることがわかる。
 ただし、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアのランキング情勢は、研究資金削減、移民受け入れの縮小などにより停滞気味だ。例えばアメリカのランクイン校数は157校から172校に増えたが、約3分の1が順位を下げている。それ以外の国／地域にも、前回と同レベルのスコアを維持しながら

ら、順位が下がった大学が多い。要因の一つに、初ランクインの大学や急激に順位を伸ばした大学が上位に食い込んでいる事情がある。大学間の国際競争が激しさを増しているのだ。
 躍進を遂げた大学には、アジア、特に中国の大学がめだつ。清華大学は数学、コンピュータ科学などの分野で実績や評判を高め、前回の30位から22位にランクアップ。北京大学(31位)から中国1位を奪うばかりか、ここ3年間アジア1位の座を守ってきたシンガポール国立大学(23位)をも上回った。ほかにも、浙江大學は177位から101位にランクアップ。世界トップクラスの大学をめざして2011年に設立された南方科技大学は設立からわずか7年で301-350位に初ランクインした。
 アジア勢のトップ200ランクイン校数を見ると、中国7校、香港5校、日本2校、シンガポール2校とそれぞれ前回を維持。韓国は私立の高麗大学が198位に入り、これにより韓国のトップ200ランクイン校数は4から5校に増えた。
 その他の国／地域で注目したいのはフランスだ。同国は近年、国際的な地位の向上などをめざして、政府主導で大学の統合を進め

研究力を可視化する 2019世界大学 WORLD UNIVERSITY RANKINGS

THE世界大学ランキングの2019年版が9月に発表された。研究力に比重を置くこのランキングの結果から世界の大学の勢力図がどのように変わったのかを読み取るとともに、国際市場への進出に消極的と言われる日本の大学が研究面で世界に存在感を示すための方策を探る。

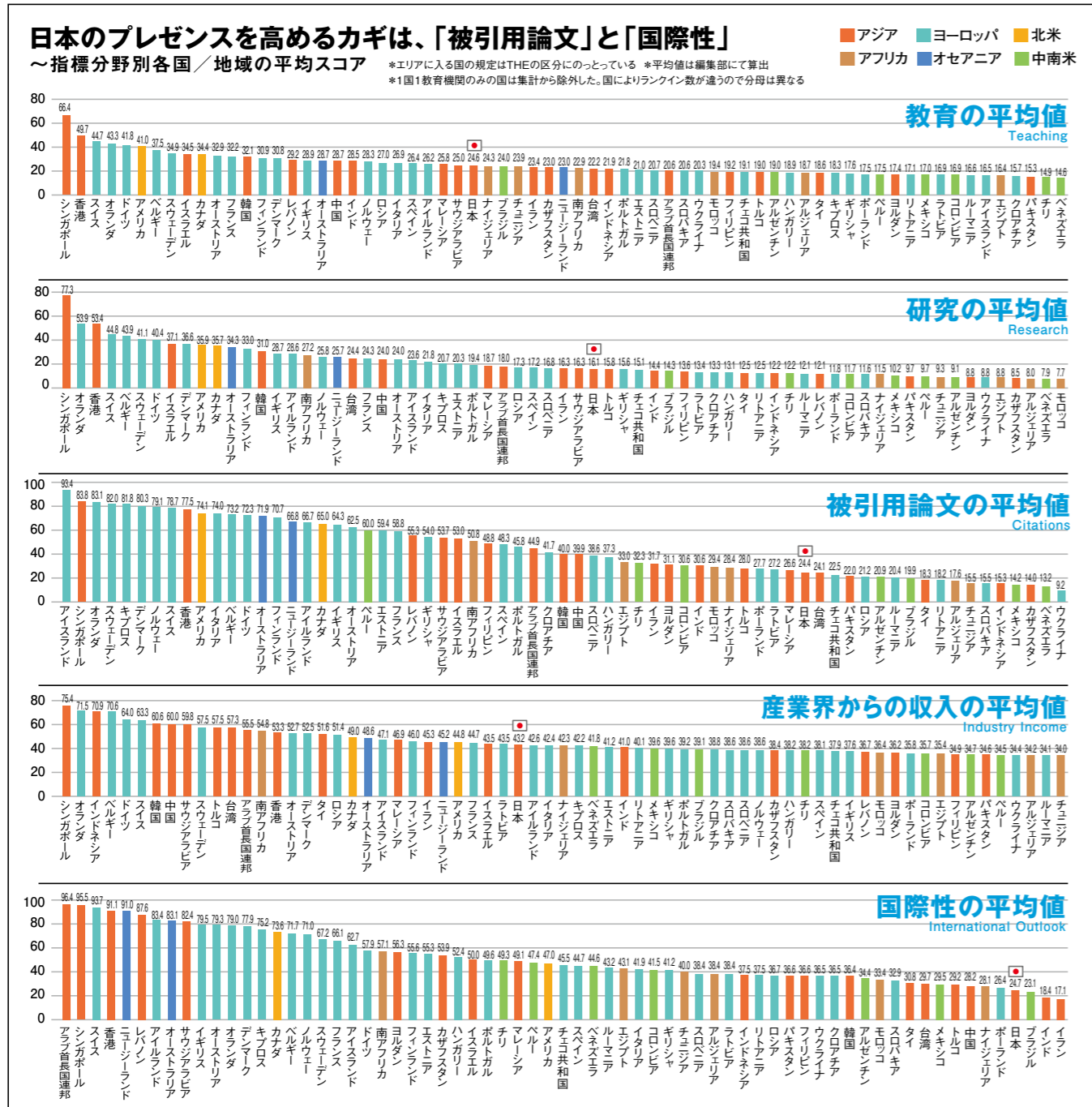
THE世界大学ランキング TOP10【図表1】

順位 2019 Rank	順位 2018 Rank	国／地域 Country/region	教育機関 Institution
1	1	イギリス	オックスフォード大学
2	2	イギリス	ケンブリッジ大学
3	=3	アメリカ	スタンフォード大学
4	5	アメリカ	マサチューセッツ工科大学
5	=3	アメリカ	カリフォルニア工科大学
6	6	アメリカ	ハーバード大学
7	7	アメリカ	プリンストン大学
8	12	アメリカ	イエール大学
9	8	イギリス	インペリアル・カレッジ・ロンドン
10	9	アメリカ	シカゴ大学

Report 2019年版結果分析

ランクイン数では日本は世界第2位に
 イギリスの高等教育専門誌THE (Times Higher Education) は、2019年版の世界ランキングを9月26日に発表した。ランキングTOPはイギリスのオックスフォード大学で、今回で3年連続となる。TOP10はイギリス3校、アメリカ7校と英米が独占した【図表1】。2018年版(以下、「前回」と同じく、指標は5分野13指標【図表2】。研究力を中心に、大学の総合力を測っている。除外条件にも変更はない。
 今回はエントリー数の増加に伴い、ランクイン数が前回の81か国1102校から、86か国1258校に増えた。中でも日本の大学は

【図表5】



各国／地域別の各順位帯別ランクイン数【図表3】

順位	アメリカ	日本	イギリス	中国	ドイツ	オーストラリア	フランス	台湾	韓国	カナダ	香港	シンガポール
1~100	41	2	11	3	8	6	2		2	5	3	2
101~200	19		18	4	15	3	2	1	3	4	2	
201~250	9		4		5	5	3		2	1		
251~300	14	3	6		7	3				4		
301~350	14	1	3	2	3	4	5			1		
351~400	10		5	3	1	3	2		2	1		
401~500	16	7	11	2	5	4	7	2	1	2	1	
501~600	17		6	11	1	5	2	5	3	3		
601~800	25	11	18	17	2	2	8	3	5	5		
801~1000	6	27	12	22			3	11	6	1		
1001+	1	52	4	8				10	5			
総計	172	103	98	72	47	35	34	32	29	27	6	2

TOP200内の国／地域別校数とトップ大学【図表4】

国／地域	校数()内は前回	国／地域内で最高順位の教育機関とその順位
アメリカ	60(62)	スタンフォード大学 3位
イギリス	29(31)	オックスフォード大学 1位
ドイツ	23(20)	ルートヴィヒ・マクスミリアン大学ミュンヘン △32位
オランダ	12(13)	デルフト工科大学 △58位
カナダ	9(6)	トロント大学 △21位
オーストラリア	9(8)	メルボルン大学 32位
スイス	7(7)	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 ▼11位
中国	7(7)	清華大学 △22位
香港	5(5)	香港大学 △36位
スウェーデン	5(6)	カロリンスカ研究所 ▼40位
韓国	5(4)	ソウル大学 △63位
フランス	4(6)	PSL研究大学パリ △41位
デンマーク	4(3)	コペンハーゲン大学 ▼116位
ベルギー	3(4)	ルーヴェン・カトリック大学 ▼48位
イタリア	3(2)	聖アンナ大学院大学 △153位
シンガポール	2(2)	シンガポール国立大学 ▼23位
日本	2(2)	東京大学 △42位
フィンランド	2(2)	ヘルシンキ大学 △99位
ノルウェー	2(1)	オスロ大学 △121位
スペイン	2(2)	ボンベウ・ファブラ大学 △135位
アイルランド	1(1)	トリニティカレッジダブリン △120位
オーストラリア	1(1)	ウィーン大学 △143位
南アフリカ	1(1)	ケープタウン大学 △156位
台湾	1(1)	国立台湾大学 △170位
ロシア	1(1)	M.V.ロモノーソフモスクワ国立総合大学 ▼199位

※【△】：前回よりアップ／【▼】：前回よりダウン(いずれも前回のトップ大学の順位)

ている。この動きにより2010年に複数大学の連合研究組織として誕生したPSL研究大学パリは、前回の72位から41位にランクアップ。2018年1月に誕生したパリ第3大学(新ソルボンヌ大学)は73位にランクインして、合併前のパリ第4大学(前回196位)とパリ第6大学(前回123位)より順位を上げた。THEはこれらを統合の成果と評している。一法人複数大学方式(アンブレラ方式)をはじめ大学の再編・統合について議論が熱を帯びている日本にとって、参考になる事例と言えるだろう。

次に、各指標分野別の結果について、各国／地域の平均スコア比較【図表5】をもとに見てみたい。「教育」は、研究者や学部生の育成力、指導の手厚さ、学習環境の充実度などを示す指標だ。評判調査の比率が高く、知名度の高い伝統校が有利となる側面を持つ。上位15位までは、アメリカとカナダを除き全ての国／地域が前回より平均スコアを上げており、下位との差を広げている。日本は前回の25・3から24・6にスコアを

シンガポール、香港、中国、西アジア各国の存在感

下げたが、5分野の中では最も高い28位に位置している。「研究」はその質、競争力、学術生産性などが算出基準だが、これも評判調査比重が高い。日本は論文数の停滞、国際的なシェアの低下が各所で指摘されている中、前回並の平均スコア16・1だった。一方、韓国、台湾は平均スコアを上げており、その差は拡大している。単に論文数を増やすだけでなく、成果の広報や、研究面でのブランディングを行うことが大切だ。「被引用論文」は、新たな知見を世界に広めるうえでの、各大学の影響力を測っている。

中国の平均スコアは35・1から39・9へと上がり、躍進の原動力となっている。国家が予算を投入し、先進国で実績を挙げた中国人、中国系アメリカ人等の研究者をリクルートし続けている成果と言えよう。国策として複数大学のトップ100入りをめざし研究予算の拡大を行っているサウジアラビアが平均スコアを42・0から53・7に上げるなど、西アジアの大学や国の奮闘もめだつ。日本は前回の22・9から24・4へとスコアを上げたものの、下位に甘んじている。継続的に多くの研究者に引用される論文を出す、引用される論文を

出せる研究者の育成・招聘に取り組むことが求められる。「産業界からの収入」には、産業界から見たその大学の研究価値が反映される。5分野の中で、アジアが最も強みを発揮する分野だ。シンガポールが1位をキープし、インドネシアが平均スコアを63・2から70・9に上昇させて3位に躍り出ている。日本は41・5から43・2へと平均スコアを上げたが、韓国、中国、台湾などに水をあけられている。上位の国と比べると日本は、企業との連携スケールが小さいことが課題だ。産業界との連携体制を見直したい。「国際性」は、外国人学生・教員の誘引力、他国との研究協力体制などが問われる。留学を検討中の学生が注目する指標だ。韓国、台湾、中国、日本はいずれも前年よりスコアを上げたが、下位にとどまっている。一方、同じアジアでもアラブ首長国連邦や、英語圏のシンガポール、香港などは留学先として選ばれやすく、依然、強さを発揮している。教育の国際化のためだけでなく、研究の国際的な競争力を高めるためにも、海外向けの広報や国際共同研究などに力を入れる必要がある。

総合順位(全ランキン大学)【図表11】

Table with 6 columns: Rank, World Rank, University Name, and other ranking metrics. Lists top universities like 東京大学, 京都大学, etc.

研究 国内TOP50【図表7】

Table with 4 columns: Rank, University Name, and Research scores. Lists top research universities.

教育 国内TOP50【図表6】

Table with 4 columns: Rank, University Name, and Education scores. Lists top education universities.

日本の大学のランキング結果
Legend: 国立 (Blue), 公立 (Green), 私立 (Red)
Includes explanatory text about the ranking methodology and internationalization efforts.

国際性 国内TOP50【図表10】

Table with 4 columns: Rank, University Name, and Internationality scores. Lists top international universities.

産業界からの収入 国内TOP50【図表9】

Table with 4 columns: Rank, University Name, and Industry Income scores. Lists top universities for industry income.

被引用論文 国内TOP50【図表8】

Table with 4 columns: Rank, University Name, and Citation scores. Lists top universities for citations.

日本の大学は国立55校、公立10校、私立38校の計103校がランクインし、前回の89校から14校増加した。初ランクイン校は16校にものぼり、帝京大学（4011-500位）、日本医科大学、立教大学（6011-800位）など。

立大学の国内トップは、前回501-600位から4011-500位へとアップした藤田医科大学と、初ランクインの帝京大学。被引用論文の国内順位がそれぞれ2位、1位と、注目を集める論文発表が強みだ。

学生の評価、SDGsへの取り組み etc.
多様化する世界大学ランキング
THEは近年、さまざまな側面から大学に光を当て、さまざまな力を可視化した、ユニークなランキングを精力的に発表している。

THE世界大学ランキングのさまざまなランキング例
Table with 3 columns: 種類, 概要, 備考. Lists various ranking systems like Europe Teaching Rankings, US College Rankings, etc.